

智義道 滿代則秋松沼山浦田員會生正學

## 1 まえがき

てわす業考ンすンすンうと  
い思促従と一供一供一使る  
おとを  
るゾ提ゾ提ゾ提ゾであ。  
る展下、あはをはをはしのる。  
画な發でと役と役でと区す  
計に。(要業用業用こ位にと  
市要長者重産は産はこ単う位  
都重成業は幹い幹い、のよ單  
やがの就布基る基るたつのの  
決計市地分うあ非あま一どつ  
解推都業のい財、財。をな一  
のの、従) でるしるす村市を  
題布にの。こす指す指町浜区  
問分特業ぶこ出を賣市横は  
市口。産呼。移業消業て、で  
都人る幹とるへ産で産ししろ  
はれ基者え外る内ると但こ

カ力デ從業で、かるて  
リの業從事はるない  
よ際産業とでまとつ  
調実幹産核こは核に  
理に基幹をこて、性  
次に基ン。あた能  
社。との一るがま可  
するご自ゾめ形。の  
まん独る求布るせ  
、求一、なを分すわ。  
はをゾめく形の討合く  
式で求き布際檢ねい  
九論いを大分実て重て  
新理用度がのにせのし  
ののを密度ら式わン察  
こ形タ者密れ論合一者  
布一業者そ理をゾも

## 2 基幹産業従業者数分布の理論式

基礎の関をに数要す生面ちを企る等の費、時るの  
産模件関必わの地わ件、す費等擦はのあ數  
生規条産に表ス土な条はと却金摩と復で者。  
、産の生めをラ、すう費要消質通用往の業る  
は生大。た係グて、い産必価る交費のも従な  
ての極るの関ダし件と生に減すは擦際した業に  
はるし業潤あ産の、そ条る。めの対で摩るし産う  
論いと企利で生とは。うするた本にこ通す算幹よ  
理て法をるのの力でるいにいる資者こ交送換基の  
るい方論あもそ働こいと定てす設働て。輸にた次  
すづく理でうと労こてる一しを建労しるで幣れは  
開基導の件い物び。いあを形動。とそいま貨か式  
展にを費条件と産及る用が率変活る用、て心を導布  
で論式産るる生財あを限備て産あ費用え都失り分  
こ理論生すす、産で数制装し生で变費加を損よ的  
こな理と定入は生の関に本入が用不变も品的れ論  
的 数決導となも産積資導業費の可用設間に理

$$L = L_0 \exp\left(-\frac{W}{P_B} - 1\right) \exp\left(-\frac{a_b q}{P_B} t\right) \quad (1)$$



図-1 ゾーン間累積距離

間でののをやまと積や二目す鉄ゾ、  
のとへ離か道。離累車、にに、は、  
ンコン距の鉄る距離動でめとはを率  
一のーのる、あのん自こたこ率の担  
ゾ離ゾつはいで際ー、そるる担も分  
と距各二てとと実ゾは。すい分たる  
ンたらのつ離こは、段る計用るえす  
ーっかこ合距の離ち手あ検をす加応  
ゾい心)。に間間距わ通でを率応を対  
るて都い実時時積な交ど性担対率に  
すし(な現)。要累するな当分に担離  
接積点はりる所間)。す車妥通離分距  
隣累心でよすのンる応輪の交距の積  
てを中離が討どーい対ニ離別間ス累  
し離。距ら検なゾてに、距段時バ間  
に距る線ちにス、つ離歩の手。とン  
心のあ直ど次バた使距徒つ的る道一

え目の加の際、率で地を担める政策を求める聲のをあつた。從車率で分担する車輪者をもつて、二分業者とを幹部とする歩う業者とを車の基動もは、自的

- 勤務地・業務累積による実間上現れ、ばの離隔が一割がゾハ方の率積る。結果が距離。

### 3 データを使った基幹産業従業者数分布

業第4区(140)の者4るの次を回一分を式で次別法つ代を求年ン方使に各。術幹関乗しる、る学基にて入ずめ次別法つ代を求年ン方使に各。術幹関乗しる、る学基にて入

$$k_w E_j^b = k_w E_j - k^\alpha \cdot {}_w E_j - k^\beta \cdot {}_R E_j \quad (2)$$

ゾ、別  
各で  
てめ  
し求  
計を  
合数  
に者  
に者  
と業  
と業  
ご従  
業業  
産業  
産業  
各幹  
基ゾ  
、基ゾ  
一業使  
従、都  
従ゾ  
用の者  
ン者用  
の者ン  
業一業  
使園業  
ゾ従、都  
従ゾ。そ  
のを産  
業で首  
ある。そ  
れ幹一  
度分大  
ある。そ  
基年。

にす東を  
めに、線  
たと、線岸  
るこ崎根  
たる業ツ  
は業ツ  
指従ト  
布産ロ  
数業し  
える、て、  
与切線し  
をを北と  
て、対。  
性面東線。  
いで片る。  
向平浜枝  
るおのりあ  
方で京のす  
るにとで、  
につ、そに式  
いを2  
布沿はびと  
論て數一  
分にで及こ理  
つ対図  
、道こ線るの  
なにが、  
に鉄こ本す  
程に度の  
次要。道用先  
布密も  
主る海採  
分者た

区ン核代都上業わ式と  
崎一は千京線從表論こ  
川ゾン、東直業を理る  
区、る一たちが産とのする  
田なゾまわン幹こ)合  
代との。な一基る(1)適  
代他るすゾ、あ式て  
が。あ、各はで、い  
つるにン、れ布ちお  
と四か下ーはこ分わに  
るのわ響ゾで。数なタ。  
見区が影のりる指すーる  
を中とのく辺いが。デい  
2区、こん近ので布るのて  
ー見るーの区ん分い際し  
岡なゾ区3並數て実示  
鶴にの田2に者しがを

次に、この片対数プロットした分布

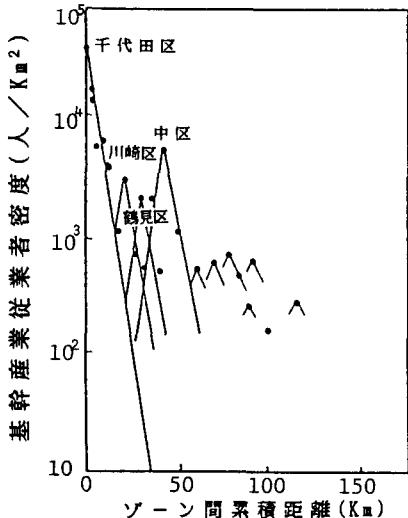


図-2 片対数基幹産業による従業者に分布する業種

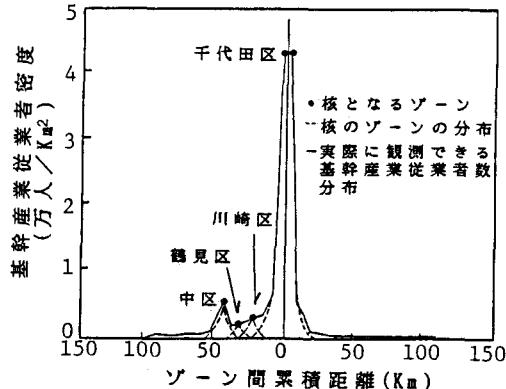


図-3 基幹産業従業者数分布

て、でゾのこソう東るさ  
しめる元、一いはい小  
そ求なばたゾとでてに  
をとほまるる区れ常  
。布核、。なあ田入非  
る分。るとに代にはる  
みのるすか核既千下でか  
て自あわわは範、響りわ  
し独で合がといば影迫が  
直の3ねとこ狭えのと  
にン一重こる的例そ区こ  
布一図をるか較。は崎る  
分ゾが布なわ比る区川い  
るの分にらはあ3もて  
常なもの形か響で2どつ  
通とたん布図影と都れな  
を核み一分ののこ京けく

4 結び

デ式た核よ。のわ  
の論ついにるか思  
際理かきとえつと  
実たわ大こいくる  
、しがのるといあ  
は出と度せるはで  
布きこ密わな團体  
分導う者合く市合  
数ら沿業ね近都集  
者かに従重にのの  
業論數業を形つン  
従理開産ン布一一  
業済數幹一分、ゾ  
産經指基ゾのちる  
幹、に、る元わな。  
基タもたなてなとる。  
一とまとっす核れ